ありがとうの中で生きる

中学三年　宮本　星瑳

今年は、戦争が終って八十年の年になると聞きました。おじいさんやおばあさんの世代の方の中には、戦争を体験された人もまだいらっしゃいます。私自身は戦争を体験していませんが、本や映画なで戦争のことを知ると、その恐ろしさに胸がしめつけられるような気持ちになります。爆弾がおちて家がなくなったり、大切な家族や友だちを失ったりすることは想像しただけでもこわいです。もし、今、戦争が起きたら、私が毎日あたりまえのようにしている勉強や音楽、友だちと笑うことが、すべてなくなってしまうかもしれません。そう考えると、今こうして平和な中で生活できていることが、どれほどありがたいことかを改めて感じます。

仏教の中で、阿弥陀さまは「すべての命を救いたい」と願ってくださっていると学びました。私たちはそれぞれちがった性格や考え方をもっていますが、そのどれもが大切ないのちであり、否定されるものではないと教えられています。また、仏教には「縁起」という言葉があることを知りました。これは、自分の命が一人だけで成り立っているものではなく、たくさんのつながりの中で生かされている、とい

う教えです。例えば、私はチェロを勉強していますが、その楽器一つを見ても木を切ってくださった方や、それを加工してくださった人がいて、はじめて私の手に届きます。先生が教えてくださり、家族が応援してくれるからこそ練習を続けることができます。音楽を通して友だちと一緒に演奏できるのも、たくさんのつながりのおかげです。このように考えると、私のいのちは決して一人だけのものではなく、多くの人や自然とともにつながっているのだと感じました。私は普段、当たり前のように生活していますが、本当は多くの「ありがとう」の中で生きているのだと思いました。

平和のことを考えるとき、世界にはまだ争いや戦争が続いている国があることを思いだします。テレビなどで見る映象には、家を失った子どもや、食べ物を手に入れることができない人が出てきます。その姿はとても悲しく、なぜこんなことが起きてしまうのだろうと考えさせられます。国や文化がちがっても、すべての人はいのちを大切にされるべき存在だと思います。私たち一人ひとりが「いのちを大切にする心」を持ち、相手を思いやることができれば、少しずつ争いをなくしていけるのではないかと思います。

私にできることは小さなことかもしれません。友だちを大切にす

ることや家族への感謝を忘れないこと。そうした積み重ねが、平和につながっていくのだと信じています。これからも私は、友だちや家族、そして出会う人びとを大切にしていきたいです。平和な未来をつくるために。